

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02938

研究課題名(和文) 海外留学・進出を支援する英語面接訓練法の開発

研究課題名(英文) Development of an English Interview Training Program to Support Overseas Study and Employment

研究代表者

遠山 道子 (Toyama, Michiko)

文教大学・経営学部・准教授

研究者番号：30439343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：英語面接に関する知識・技能・心理面の育成を目指し、動画による個別学習やビデオ通話による演習を導入した英語面接訓練プログラムを完成させた。一斉指導で英語面接に関する知識(質問内容や期待される回答、発音・聞き取りのコツ等)をインプットした後、動画を利用して個別練習させることで、英語発話における技能(流暢性・正確性・複雑性)が改善することを実験で確認した。また、一斉指導後にクラス内ペアで面接官と受験者のロールプレイ練習をさせ、その後にビデオ通話を利用した国外の英語話者と面接演習をすることで、英語ライティングにおける流暢性と正確性が上昇することや、心理面における改善も確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的意義：本研究で開発した英語面接訓練プログラムは、英語学習者の面接・言語・心理面における改善の効果が確認された。よって、海外留学や進出を目指す生の支援に活用できる。
学術的意義：英語面接に特化したブレンド型訓練法として、動画ベース個別学習とビデオ通話ベースの面接演習を組み合わせたものは過去に報告されていない。本研究では訓練法の詳細とその効果を具体的に英語論文で報告した。

研究成果の概要(英文)：To develop knowledge, skills, and psychological aspects of English interviewing, we developed a training program that incorporates individual video-based practice and video-call-based training. We confirmed through experiments that video-based practice could improve learners' speaking skills, and video-call-based training enhanced writing skills. We also showed that the whole training process improved participants' intrinsic motivation for speaking practice.

研究分野：応用言語学(SLA)、音声コミュニケーション

キーワード：留学支援 英語面接指導 英語学習心理 英語発信力 英語学習不安 ブレンド型授業 不安軽減 内発的動機づけ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

海外関連業務を任せられる人材の育成、言語・異文化スキル向上のための留学促進が叫ばれ、英語教育の重要性が増すなか、日本国内の学生について以下のような課題が存在していた。

- (1) 英語を話し書く能力が国際比較において低い傾向にある。
- (2) 日常的に英語に触れる機会がなく、使用頻度が低い。
- (3) 英語の使用や学習に対してネガティブな気持ち(不安など)を持つ傾向にある。

一方で、留学試験や海外インターンシップ採用試験の一環として、ビデオ通話を用いて英語面接を受ける機会が増加傾向にあり、日本の学生が英語面接でいかに良い印象を残せるかを研究し、指導する必要があった。

2. 研究の目的

英語面接に関する知識・技能・態度の育成に着目し、効果的な英語面接訓練プログラムを作り、その効果を検証することを目的とした。この訓練プログラムは「体験学習」を重要視し、動画教材によるアウトプット練習や、ビデオ通話を利用した英語コミュニケーション・英語面接の演習を取り入れる計画をたてた。また、この研究により学習面における留学支援に貢献したいと考えた。

3. 研究の方法

英語面接訓練プログラムは、図1のような流れと、複数の学習スタイルの組み合わせを想定した。

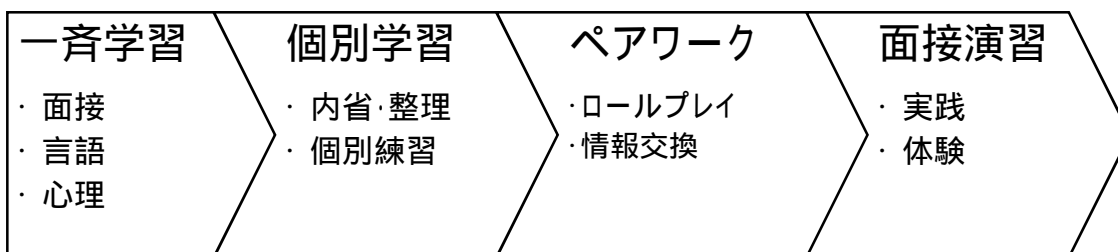


図1： ブレンド型英語面接訓練プログラム¹⁾

この全体像をベースとし、各要素で必要となる指導内容や教材や機器等を準備した。具体的な手順としては、(1)英語面接に関する調査(質問内容と期待される回答、よく出る質問の聞きとり、難しい箇所など)を行い、(2)英語学習・使用の不安と動機づけに関する調査・文献研究を行い、(3)訓練前に行う不安軽減法の紹介と動機づけの方針を固め、(4)一斉指導の教案と教材を作成し、(5)個別に面接練習ができる動画の作成と e-learning 環境整備を行い、(6)ビデオ通話を用いた英語面接演習を実施するための環境整備を終え、パイロット版プログラムを完成させた。

その後、本プログラムの言語面・心理面における効果検証を行うため、トライアングレーションを意識し、下記を用意した。

- (1)発話テスト・評価基準
- (2)英語ライティングテスト・評価基準
- (3)英語教室不安尺度、英語学習動機付け・自己効力感尺度
- (4)学習日誌フォーマット・分析基準

以上の準備を終えたのち、動画教材のみを利用した場合の効果検証や、ビデオ通話を利用した面接演習のみを利用した場合の効果検証を行った。

4. 研究成果

主な研究成果は以下の通り。

- (1) 英語面接 5 つの基本質問を設定し、これらの聞きとりと返答練習ができる動画を作成した。北米出身の実務教員に出演してもらい、普段通りの音声変化を豊富に含む話し方で大学教員のつもりで面接質問をする様子を録画し、教材化した。この動画を教材として授業で導入し、探索的に学生の英語会話技能の改善を試みたところ、動画内の質問に対する発話における 流暢性、正確性、情報量が改善していることを確認できた。本研究内容は、外国語教育メディア学会関東支部研究紀要において報告²⁾した。

(2) 日本の学生の英語学習と使用に関連した不安の程度を調査し、要因を分析したところ、「単語を覚えても忘れてしまうのではないか」、「いざ外国の人と話すとなると頭が真っ白になり何も話せないと思う」といった漠然とした非合理的な考え方に起因する傾向が明らかになった。そこで対策として、こうした非合理的な思考を「合理的」で「ポジティブ」な思考へ転換させることを目的とし、ポジティブセルフトークという学習方略の使い方を指導したところ、英語不安の有意な減少を確認することができた^{*3}。

(3)英語面接の「体験学習」と演習の機会を与えるため、ビデオ通話を導入した演習法を構築し、効果検証したところ、演習を体験した学生の英語不安が有意に軽減していること、未体験者については有意な低下には至らないことを確認した。

(4) 様々な改良を重ねて「ブレンド型英語面接訓練プログラム」を完成させ、授業で導入し効果を調べたところ、本訓練を受けた者は 英語面接に対する自信(自己効力感)が高まり、英語の知識・スキルの獲得を自己の成長と関連付けるようになり、英語の練習自体を楽しめるようになる傾向を確認することができた。

< 引用文献 >

*1 遠山道子 (2021)「映像を活用したブレンド型英語面接訓練プログラム -英語学習の楽しさを増し、不安を軽減する-」、ウェブマガジン『留学交流』、pp.17-24.

*2 遠山道子(2019)「英語面接における会話技能の育成に向けて デジタル動画の開発と応用」、外国語教育メディア学会 (LET)関東支部研究紀要、3巻、pp.69-82.

*3 Toyama & Yamazaki (2021) Anxiety reduction sessions in foreign language classrooms, The Language Learning Journal, Vol.49(3), pp.330-342.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 遠山道子	4. 巻 7
2. 論文標題 ビデオ通話による英語面接練習を導入したブレンド型学習における学びの分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営論集	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Increasing Motivation to Practice English through Videoconferencing: A Preliminary Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 19th European Conference on e-Learning	6. 最初と最後の頁 622-626
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34190/EEL.20.128	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko, Yamazaki Yoshitaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Blended Learning Sessions to Improve job Interview Skills	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 18th European Conference on e-Learning	6. 最初と最後の頁 698-700
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34190/EEL.19.056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko, Yamazaki Yoshitaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Anxiety reduction sessions in foreign language classrooms	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Language Learning Journal	6. 最初と最後の頁 1~13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09571736.2019.1598474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠山道子	4. 巻 3
2. 論文標題 英語面接における会話技能の育成に向けて デジタル動画の開発と応用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育メディア学会関東支部研究紀要	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko, Yamazaki Yoshitaka	4. 巻 -
2. 論文標題 PSYCHOLOGICAL FACTORS AND LEARNING BARRIERS IN FOREIGN LANGUAGE COURSES IN HIGHER EDUCATION	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 EDULEARN18 Proceedings	6. 最初と最後の頁 1077-1081
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21125/edulearn.2018.0356	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko, Yamazaki Yoshitaka	4. 巻 3
2. 論文標題 Exploring the components of the foreign language classroom anxiety scale in the context of Japanese undergraduates	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian-Pacific Journal of Second and Foreign Language Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40862-018-0045-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toyama Michiko, Yamazaki Yoshitaka	4. 巻 5
2. 論文標題 English Proficiency Requirements for International Students as an Admissions Factor for Overseas Universities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Public and Private Management	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Michiko Toyama
2. 発表標題 EFL interview training through CMC
3. 学会等名 FLEAT 7 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiko Toyama
2. 発表標題 Impact of Blended Learning Sessions Using Videoconference on EFL Learners' Written Accuracy and Fluency
3. 学会等名 Hawaii International Conference on English Language and Literature Studies (HICELLS 2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Michiko Toyama
2. 発表標題 Motivation and Anxiety in EFL Oral Communication
3. 学会等名 JALT Hokkaido Winter Conference 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎佳孝
2. 発表標題 外国語教室不安尺度の潜在因子の探究
3. 学会等名 言語エキスポ2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠山道子
2. 発表標題 Language Learning Amotivation and Learning Outcomes
3. 学会等名 EDULEARN18 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 佳孝 (Yamazaki Yoshitaka) (50387312)	文教大学・経営学部・教授 (32408)	
研究分担者	森 一将 (Mori Kazumasa) (10616345)	文教大学・経営学部・准教授 (32408)	[辞退]

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------